

特別研修 底延縄漁具漁法について

与那国漁協青年部 津波古聡、大城常良

1. 研修目的

与那国島はカツオ、カジキの好漁場に恵まれているため、曳縄釣漁業が盛んである。またマチ類を対象とした深海一本釣りの瀬付漁業も盛んである。しかし漁業生産は年ごとに落ちこんでいるため、経営は不振に陥っている。このため漁業経営を改善するため地先沿岸で可能な底延縄漁法を導入し、曳縄釣り及び一本釣り漁業と組合せた操業を時期的に行ない、資源の維持に努めながら漁業経営の安定向上を図ることを目的とした。

2. 研修者

与那国漁協青年部

津波古聡、大城常良、川田一正、後間貞光、市成寿栄、玉城正太郎、上原正旦

3. 研修期間 平成2年10月15日～10月21日

4. 研修場所 糸満漁業協同組合

5. 研修内容

糸満漁協は古くから底延縄漁業が盛んであったが、近年漁業種類が増えたために現在20数隻となっている。多くはF、R、Pのサバニ型である。漁場は糸満から慶良間、久米島、伊是名、伊平屋方面である。冬期は糸満から慶良間方面が一般的で、操業は時期によって昼間や夜間も行なう。天候のよい日は2～3日泊りの操業である。魚種は時期によって違いますが、はまふえふき（タマン）、しろだい（シルイユー）、ばらはた（ナガジュウミイバイ）、にせくろほしふえだい（ヤマトビー）等である。漁法は一人乗りを専業とした周年操業であり、地味な漁法であるが経営は比較的安定しているようである。

研修は底延縄を専業としている漁業士から漁具漁法と漁具製作の指導を受けて、漁場で餌の切り方から投縄、揚縄までの一連の漁労作業を実施した。技縄200本を投下したが釣獲率は低かった。しかし漁場によっては効率的な漁法であると思われる。

6. 所感

当与那国は時期によって曳縄と底魚一本釣りを営んでいるが、特に一本釣りで獲れるマチ類の資源は急激に減少し魚価の低迷に加えて、漁業経営は年々悪化の一途を辿っている。このような厳

しい状況下に水産業改良普及員のアドバイスを受けて、新漁法の導入を図るため7名の漁協青年部が研修に参加した。その中で5名は町の助成による自主参加である。

今回の研修で参考になったことは、

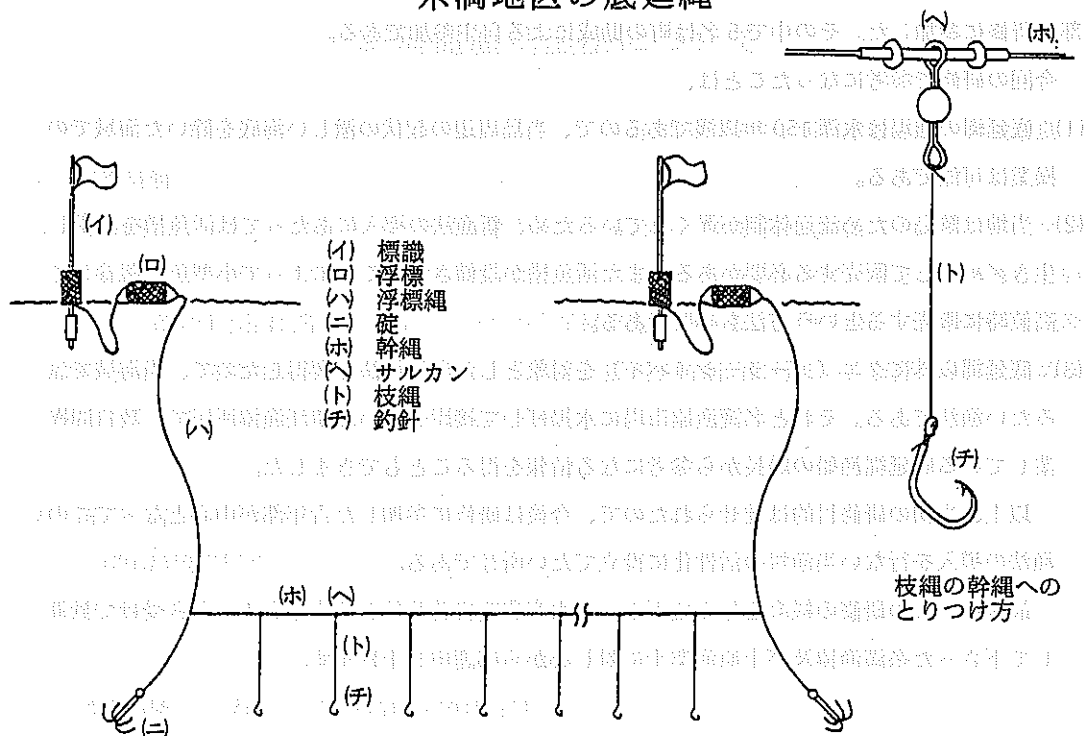
- (1) 底延縄の漁場は水深 150 m 以浅であるので、当島周辺の起伏の激しい海底を除いた海域での操業は可能である。
- (2) 当地は離島のため流通体制が遅くれているため、新漁法の導入にあたっては活魚槽を設備し、生き〆めとして販売する必要がある。また活魚槽が設備されることによって小型魚は蓄養して高値時に販売するという方法も必要である。
- (3) 底延縄以外にクエ（アラーシーバイ）を対象とした漁具漁法も習得したので、当海域で試みたい漁法である。それと名護漁協市場に水揚げして接岸していた伊江漁協所属で、数日間操業している底延縄漁船の船長から参考になる情報を得ることもできました。

以上、当初の研修目的は達せられたので、今後は研修に参加した青年部が中心となってこの漁法の導入を行ない当漁村の活性化に役立てたい所存である。

最後に、この研修の機会を与えて下さった水産業改良普及係と研修を心よく引き受けて歓迎して下さいました糸満漁協及び上原漁業士に対し心から感謝申し上げます。

| 氏名 | 所属 | 研修期間 | 研修内容 | 研修場所 | 備考 |
|-----------|-------|--------------|-------|-------|------|
| 伊江漁協 青年部員 | 伊江漁協 | 10月1日～10月15日 | 底延縄漁法 | 伊江漁協 | 自主参加 |
| 糸満漁協 青年部員 | 糸満漁協 | 10月1日～10月15日 | 底延縄漁法 | 糸満漁協 | 町助成 |
| 上原漁業士 | 上原漁業士 | 10月1日～10月15日 | 底延縄漁法 | 上原漁業士 | 町助成 |
| 伊江漁協 船長 | 伊江漁協 | 10月1日～10月15日 | 底延縄漁法 | 伊江漁協 | 町助成 |
| 糸満漁協 船長 | 糸満漁協 | 10月1日～10月15日 | 底延縄漁法 | 糸満漁協 | 町助成 |
| 上原漁業士 | 上原漁業士 | 10月1日～10月15日 | 底延縄漁法 | 上原漁業士 | 町助成 |

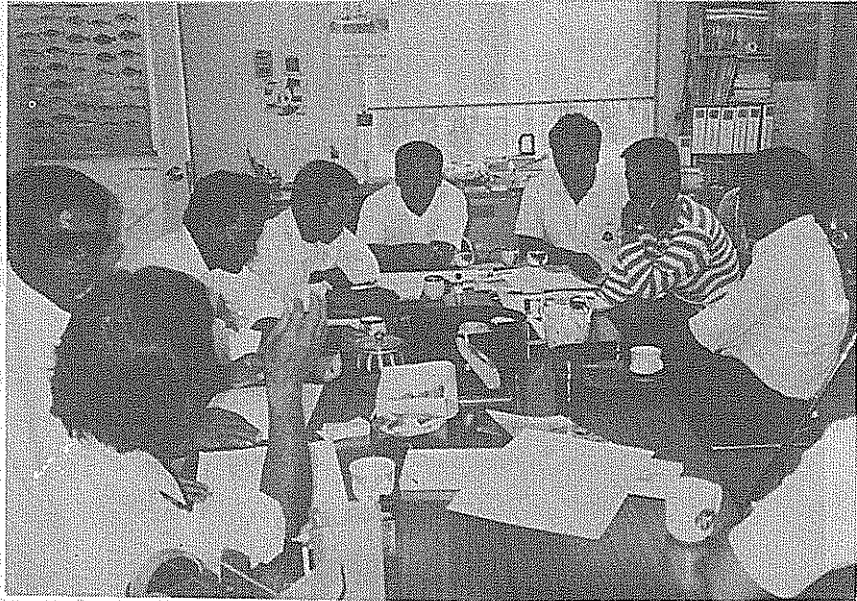
糸満地区の底延縄



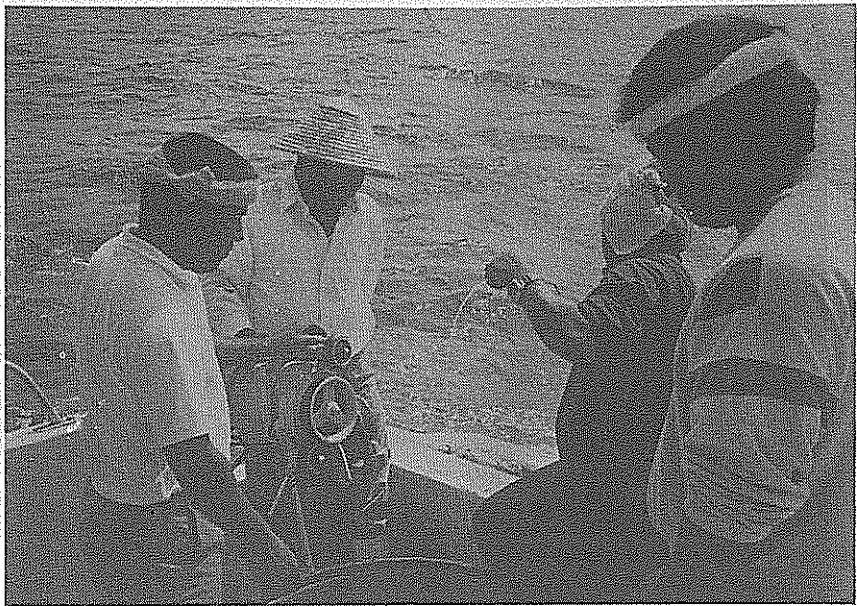
漁具の一般構成図

漁具の仕様 (1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|----|---------|--------------------------------|-------------------------------------|--------------|--|
| イ | 標識 竿旗 | ステンレス ナイロン布地 | 径25mm 2m 約3kg 40cm×50cm | 各2本 | 昼間操業用 赤か黒又は両色布地 縫い合せ 夜間操業用 ステンレス棒下部を 含む |
| | (電灯) 浮子 | 発泡ポリスチロール | 単一2個防水点滅灯 軟質筒型 { 浮力4kg "2.5kg | | |
| | おもり | 鉛 | 約1.5kg | | |
| ロ | 浮標 | 発泡ポリスチロール | 浮力約5.5kg | 2個 | |
| ハ | 浮標縄 | ポリプロピレン (PG) | 3mm水深1.3~1.5倍 | 2本 | |
| ニ | 碇 | 鉄 | 1.5~2kg | 2本 | 鉄筋製4爪 |
| ホ | 幹縄 | ナイロンテグス | 海力 40~60号又はパーロン90 ポンド545~605号 | 1本 | |
| ヘ | サルカン | ニッケルクレーン {サルカン付ステン レスパイプ | ブランスイベル2号 | 180~ 200本 | (両端1尋長い) 各枝縄に1ヶ当り 枝間3尋 |
| ト | 枝縄 | ナイロンテグス | 18号 0.5~0.6尋 | 〃 | 海力印 ⊗ マチ釣針 |
| | | 鋼 | 21号~22号 | 〃 | |



底延縄についての検討風景

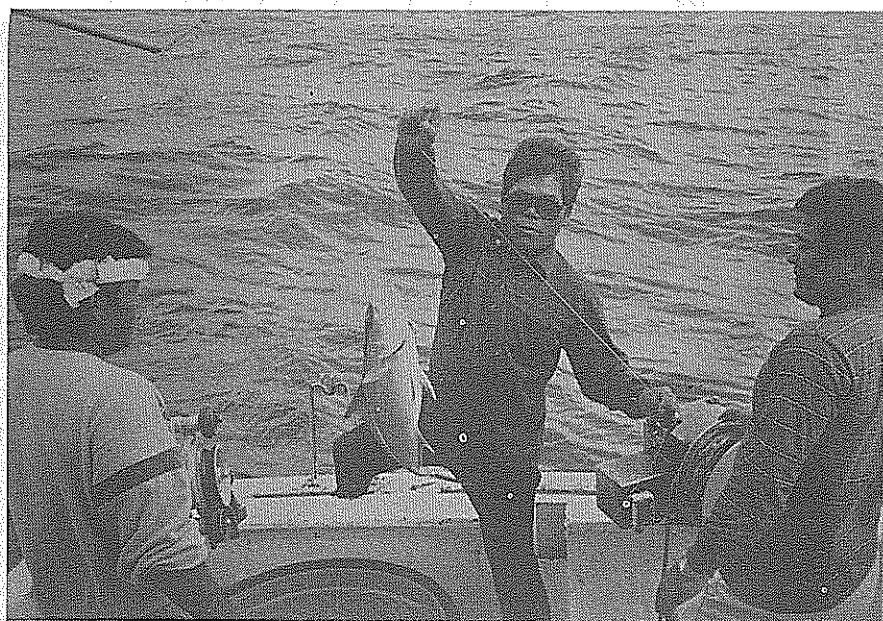


漁(マヅ具)の投入

| 時 期 | 時 間 | 講 師 名 | 講 題 名 | 所 属 機 関 |
|-----------|-------|---------|---------|-----------|
| 平成3年9月26日 | 10~12 | 上野 隆雄 氏 | 下 地 結 晶 | 水産庁 水産研究所 |
| | 13~15 | 大塚 隆 氏 | 上 地 結 晶 | 水産庁 水産研究所 |
| | 16~17 | 大塚 隆 氏 | 下 地 結 晶 | 水産庁 水産研究所 |



(10) 魚種別 餌ののり切コ断 魚種



| | | | | |
|---|----------|---------------|------|-----------|
| 型 | ナイロンテグス | 海り | 1 本 | |
| | | 入揚 縄 (魚種カンパチ) | | (前期1号貸い) |
| | ニッケルウレタン | ボンド300~605w | — | (各放網に)を当り |
| サ | ワ | フランキイベルス号 | 180~ | 400号 |
| | | | 200本 | 400号 |
| 型 | ナイロンテグス | 18号 0.5~0.6号 | | 海り |
| サ | ワ | 21号~22号 | | (5) 子釣り |